

コロナとマクロ経済

学習院大学国際社会科学部教授
伊藤元重

- * 世界大恐慌から学ぶことは何か
- * 平時と危機の経済学
- * 外れたV字回復の見通し
- * コロナ不況とリーマンショックの違い
- * 危機が引き起こす構造変化
- * 好調な株価と乖離する実態経済
- * 低い長期金利が意味するもの
- * コロナで崩れた財政回復シナリオ
- * 政府と民間の役割は異なる
- * 日本に不可欠なデジタル技術の革新



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

8月はお休みをいただきましたが、9月から再開いたします。まだ制限つきでございましてたいへん申しわけないですが、もうしばらくご辛抱いただきたいと思えます。

今日は1年ちょっとぶりに伊藤先生においていただきました。安倍政権も終わりということであベノミクスもどうなるかわかりません。経済もコロナの影響でたいへん難しい状況になっております。今日のお話も面白いお話を聞けるというふうには思えないのですが、希望もちょっとお話しただけると先ほど伺いました。経済の現状と先行き、あるいは経済政策のあり方等々につきましてお話を伺えると思えます。それではよろしくお願いたします。（拍手）

世界大恐慌から学ぶことは何か

伊藤 伊藤でございます。よろしくお願いたします。

今コロナということで皆さんもいろいろなところでお話を聞く機会が多いと思えますけれども、私は専門が経済ですので世の中の議論とは多少距離を置いて、少し中長期的な観点から今の状況を考えてみたいと思えます。資料等はございませんけれども、この前の日曜日に『日経ヴェリタス』という媒体に書いた論考が今日お話しする話に近いと思えますので、もしご関心があれば私の書いたものをお読みいただきたいと思えます。

コロナということで今世界経済は大変ですが、